

税制調査会（第16回総会）終了後の記者会見議事録

日 時：令和4年9月16日（金）16時14分

場 所：財務省第3特別会議室

○中里会長

本日は、税の総論的議論として、租税原則における「中立」について、税制調査会の土居委員から経済学的な視点からの御示唆をいただき、その後、意見交換を行いました。内容については皆さんお聞きのとおりですが、なかなか活発な議論が行われたのではないかと思います。

その後、事務局に用意していただいた資料で、これまでの有識者ヒアリングについて簡単に振り返りを行いました。

加えて、岡村委員から、デジタル化を通じて納税者の利便性や申告内容の適正性を同時に向上させるための方策や、税に対する公平感を維持するための方策などについて検討する必要があるのではないかと御意見をいただきました。あわせて、簡素についても、佐藤委員がおっしゃっているように議論する必要があるのではないかと申し上げました。

これらの課題は、やや専門的・技術的な論点の整理も必要かと思われまので、総会での議論の素材を整理するため、岡村委員が座長をなさっております「納税環境整備に関する専門家会合」において議論を進めていただくことで、本日、委員の皆様にご了解をいただいたところでございます。

同時に、「相続税・贈与税に関する専門家会合」の設置についても御報告いたしました。

この専門家会合においては、資産移転の時期の選択に、より中立的な税制を構築していくという課題について御議論いただきたいと思っております。

なお、一部には、近々暦年課税が廃止されるのではないかと、あるいは110万円の基礎控除が使えなくなるのではないかとといった見方、御懸念があるようですが、そういった議論を行うのではなく、理論的・実務的な観点も踏まえて御議論いただければと考えています。

次回総会やそれぞれの専門家会合の開催日時は、現在調整中ですので、決まり次第、事務局から御連絡をいたします。

○記者

先ほど発表がありました相続税・贈与税の専門家会合について、当面としては、相続時精算課税制度の使い勝手をよくするための議論をしていくということで、スケジュール感はこれからとのことですが、いつ頃まで結論を出していきたいと考えていらっしゃるのか。また、いつから議論を始めたいと考えていらっしゃるのか、伺いたしたいと思います。

○中里会長

相続税・贈与税に関する専門家会合は、資産移転の時期の選択に、より中立的な税制を構築するという課題について議論するものですが、今後の総会における議論の素材を整理するために設置・開催するものでございますから、中期答申に向けたスケジューール感でやっていくことになるのだらうと思います。具体的に決まっているわけではありませんが、当然、総会にかけることを前提とした専門家会合ですので、ずっと続けていくものではありません。

○記者

より中立的というところで、相続・贈与は大きな課題として、世代間での所得の差が結構出ているというところがありますが、そういうところをできるだけ生前贈与という形で若い世代に資産を移すことも目的としてあるのか、それとも基本的に中立性としての議論になるのか、その辺りはいかがでしょうか。

○中里会長

これまでもいろいろな議論を行ってまいりました。今度の専門家会合は、もう少し技術的な点について、中立的な視点から議論しようというものですので、テクニカルな話になるのではないかと思います。

もちろん専門家会合のメンバーがどのようなお考えか、議論してみないと分かりませんが、一応そのように理解しております。

○記者

今回の中立の議論の中で、ピグー税の炭素税というところが一つテーマであったと思います。炭素税は、一部の政治家が今後議論が必要だみたいな報道が出ていると承知しておりますが、政府税調として今後どういう議論が必要と感じているのか。もし、会長としてのご見解がありましたら伺えたらと思います。

○中里会長

私個人の見解を申し上げるべきではないと思います。ただ、中期答申に向けて、それも重要な論点ですから、当然議論の中で触れていくことになるのではないかと思います。どういう内容になるのか、方向性などは分かりませんが、現時点ではそのように考えております。

○記者

今後、中期答申に向けての議論の進め方として、外部有識者へのヒアリングもこれからのフェーズでやっていくことを想定されていらっしゃるでしょうか。

○中里会長

これからの議論の仕方がまだ100%詰められているわけではありませんが、様々な方にいらしていただいて、いろいろな御意見をお聞かせいただき大変勉強になりました。その大まかな整理を事務局にさせていただき、委員の皆様ももう一度それを復習なさいました。

今度は中期答申をどういうふう書いていくかを終局目標に議論をしていくことになります。それぞれの税目でいろいろな論点がございますので、どういうふうに分けて議論していくか、これから整理して考えなければいけないと思っています。

○記者

相続税と贈与税の件について、中立な方向での見直しがこれからの議論になると思いますが、例えばどういう見直しがあるとより中立なものになるとお考えでしょうか。

○中里会長

いつ贈与をするか、贈与の時期の選択によって、最終的には相続に移るわけですが、その前にいつどれだけを例えば子供に贈与するかによって負担が異なってくることは中立的ではないというのが問題意識でございます。

どういうふうに解決したら良いかというのは、今後の議論にもよりますが、相続時精算課税制度の方式をもう少し整備していくなど、いろいろ案は出てくると思います。

今決め打ちすることはできませんが、委員の皆様取材していただけると、いろいろな問題点が浮かび上がってくるのではないかと思います。

[終了]